

教員養成の目標とその計画

学校法人興誠学園は、1933年11月22日に廿日出尨（はつかでひろし）先生によって、設立されました。興誠学園の建学の精神は「誠を興す」であり、設立以来85年余の社会情勢の変化に対応して、着実な成長を遂げてきました。

本学の教員養成の歴史は、1965年の幼稚園教員養成所（第2部）（翌年第1部も併設）に遡ります。1967年には浜松短期大学幼児教育科となり、その後1992年には保母課程（現在の保育士課程）も設置されています。

そして、2004年の浜松学院大学開学により、浜松学院大学短期大学部に名称変更し現在に到っています。

この半世紀を超える歴史の中に脈々として流れる教育理念は、「高潔なる倫理観に立って、他を思いやることのできる真に豊かな人間性を基礎に、変化に対応できる創造力と実践力を身に付けた職業人の育成」であり、それが教員養成の目標とも言えるでしょう。

本学では、教員としての専門知識や技術を習得するとともに、人間性豊かな深い教養をもつことが大切だと考えています。いわゆる人間教育を意識した基本教育科目を設置し、語学や体育、哲学、歴史学、日本国憲法、情報処理などのほか、総合科目まで幅広い内容のものを、学生が目的と興味や関心によって選択・履修ができます。

また、本学では、専門職としての教育者・保育者に必要な資質や力量を深めるために、さまざまな理論や実践を学ぶことを重要と考え、そのためのものとして位置づけられているのが、「専門教育科目」です。これには、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職課程科目」と保育士資格取得のための「保育士課程科目」があり、この二つの課程は、同時に履修することが可能です。

本学のカリキュラムの特色は、何よりも子どもを理解することを大切にしながら、望ましい教育・保育のあり方を理論的に学習するとともに、音楽や造形・表現に関する多くの実践を学ぶことです。これらは、さらに教育実習や保育実習で総合的に展開・実証され、専門職としての本当の力となっていきます。そこでは、良き保育者であるための人間としての温かさや豊かさがたえず意識され、求められています。

本学では、免許資格取得だけでなく、児童文化や育児の問題に至るまで幅広い教養が身につけられるようカリキュラムを編成しています。社会や時代の要請に応えた「障がい児保育」等、特色ある科目が用意されています。「保育・教職実践演習」では、環境と教育、少子・高齢社会と福祉、家庭のあり方と子育て支援等の現代の我が国の社会全体にかかわるテーマを設定し、少人数による参加型学習で、必要に応じてフィールドワークも取り入れ、分析、検討、指導法までを視野にいたした展開をしています。また、常識が常識として認識されない時代を踏まえ、自分探しと自分育てを視野におき、教育者・保育者として、将来の親として、豊かな人間として、有為な知識や技術を学ぶための多岐にわたる内容が用意され、それを可能なかぎり体験を通して自主的に学べるように工夫されています。

ゼミナールでは、少人数の学生が、担当教員の指導のもとに、特定の専門分野や各人が興味・関心をもつテーマについて研究報告・討議などを行います。そこで主体的・協同的に探求されたさまざまな成果は、卒業研究論文や表現活動研究発表会として実を結びます。

また、学生にとってゼミナールは、学問の追求だけでなく短大生活の一部であり、心の居場所ともなります。教員と学生あるいは学生同士で、相手の思い、悩み、苦しみや痛みを共有し、共育しあう温かく深い人間関係の場となっています。

本学の一番の特色ともいえ、誇りに感じることは、学生たちがいろいろなことに目的意識をもって、主体的、積極的にチャレンジし、共に学び、感動体験を共有し、お互いを高め合っていることです。子どもフェスティバル、表現活動研究発表会等の行事活動、さまざまなボランティア活動等、活発な課外活動に学生たちが積極的にかかわっているのは、そうした現れともいえましょう。